

製品名: TBR1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21615**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:74kD;Observed MW:74kD

抗原情報

遺伝子名	TBR1
別名	TBR1
遺伝子 ID	10716.0
SwissProt ID	Q16650
免疫原	ヒト TBR1 の合成ペプチド

背景

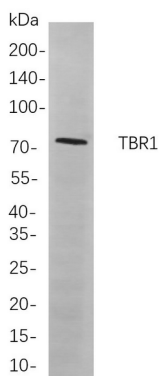
細胞局在: 核。この遺伝子は、共通の DNA 結合ドメインである T ボックスを共有する保存された遺伝子ファミリーの一員である。T ボックス遺伝子は、多くの発生過程の制御に関与する転写因子をコードする。マウスでは、この遺伝子の相同遺伝子は脳皮質、海

馬、扁桃体、嗅球で発現しており、神経細胞の移動と軸索投射に重要な役割を果たすと考えられている。マウスにおいて、このタンパク質のC末端領域は、カルシウム/カルモジュリン依存性セリンタンパク質キナーゼのグアニル酸キナーゼドメインとの結合に必要かつ十分であることがわかった。[RefSeq 提供、2015年12月]

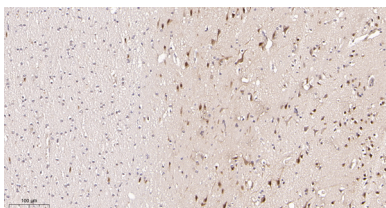
研究分野

-

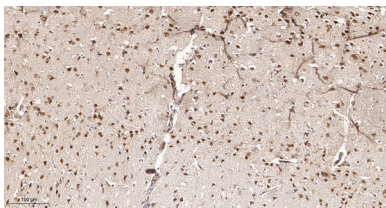
画像データ



SH-SY5Y細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (TBR1 ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学分析。1. TBR1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス脳組織の免疫組織化学分析。1. TBR1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。